

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立松梅中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成28年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、数学B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は中学3年生(小学6年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学(算数)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

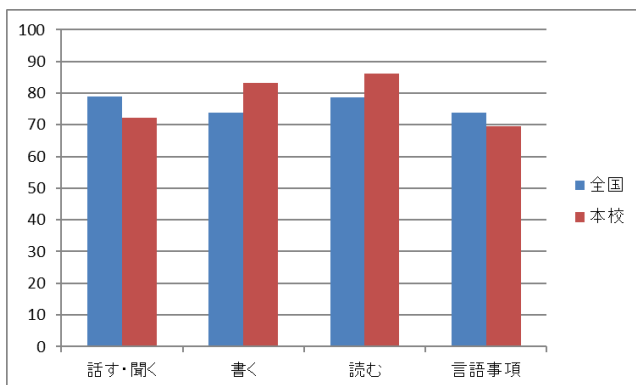
■調査結果及び考察

1 国語

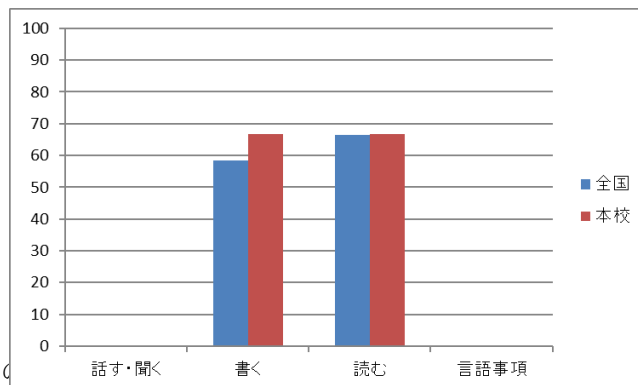
(1) 結果

全国正答率との比較

調査A（主として知識）



調査B（主として活用）



各領域での平均を全国と比較すると「書くこと」「読むこと」の領域で全国平均を上回っているが、他の領域は全国平均に到達できていない。無回答率は低く、問題に対してあきらめることなく取り組んでいる。

(2) 成果と課題

話すこと・聞くこと

・目的に応じて資料を効果的に活用して話したり、話の展開に注意して聞き、自分の考えと比較したりすることに課題が感じられる。相手や目的、状況に応じて柔軟に対応する力を育成するために、ペアやグループでの話し合い活動を授業の中で積極的に行っていききたい。

書くこと

・調査A・Bともに全国平均を上回っている。伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことは、100%の正答率である。授業の中で、いろいろな課題について書くことを意図的に取り入れたり、書いたものを互いに読みあい、評価したりする活動の成果が表れてきているので、今後も継続して取り組んでいきたい。

読むこと

・調査Aでは、登場人物の言動の意味をとらえ、内容を理解する問題、調査Bでは目的に応じて必要な情報を読み取る問題の正答率が100%であった。多様な情報に触れながら発想を得る力、幅広い読書によって主体的に考え、視野を広げる力を今後も育成していききたい。

言語事項

・漢字の読み書きや語句の意味の理解は100%の正答率の問題もあったが、文の成分の照応など文法の問題は全国平均を大きく下回った。基礎的な知識について、定着が不十分な傾向がみられるので、授業中や家庭学習での反復練習によって、向上を図りたい。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業の中で言語活動を充実させ、自分の思いや考えを豊かに表現する力を培います。
- 発表したり意見交換したりする場面を多く設定し、コミュニケーション能力の育成を目指します。

【ご家庭では】

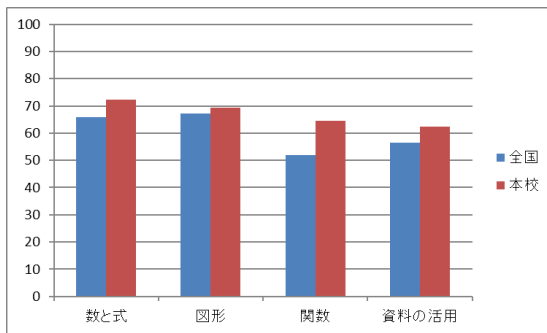
- 社会の出来事などについて機会を見つけて話題にしてみてください。会話の中から考える力や伝える力が育まれます。また、読書は視野を広げます。家族ぐるみで読書に親しんでください。
- 漢字の書き取りの宿題は毎日出していますので、時々目を通してください。正しく丁寧に書けているときは「しっかり書けているね」と励ましの言葉かけをお願いします。

2 数学

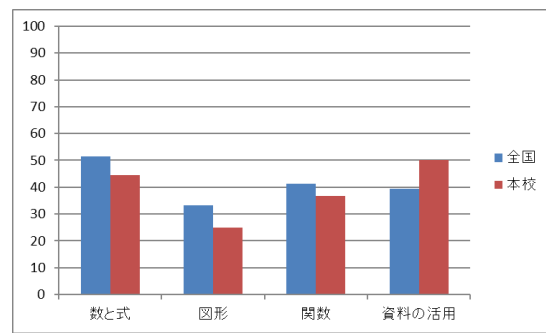
(1) 結果

全国正答率との比較

調査 A (主として知識)



調査 B (主として活用)



調査 A については、すべての領域において全国の正答率を上回った。しかし、調査 B については、資料の活用については、全国の正答率を 10% 上回ったが、それ以外の領域において全国の正答率を下回った。問題形式で比較すると、選択式、及び記述式の問題では、全国平均に近い正答率だったが、短答式の問題では全国平均よりも 5% 下回る正答率であった。以上のことから、基礎的な学力は身につけてきていると思われるが、思考力・活用力に乏しい傾向が見られる。

(2) 成果と課題

数と式

・計算問題については、正答率が高かった。しかし、具体的な場面で数量の関係を捉えることに課題があるため、実際の生活場面を想定した問題を準備して取り組ませていく。

図形

・空間内におけるねじれの位置を求める問題は正答率が 100% であった。また、平面図形を対称移動した図形をかく問題についても、同様に正答率が高かった。しかし、三角形の合同を利用して、2つの辺の長さが等しいことを証明する問題のように、複数の条件から 1つの結論を導く問題については、苦手意識を持っている生徒が多い。そのために、電子黒板を利用して、変化する図形の状況を捉え、基本的な知識をどのように活用していくかを学ばせていく。

関数

・比例に関する問題については、正答率が高かった。しかし、反比例のグラフから式を求める問題や、一次関数のグラフから変域を求める問題に課題があった。そのために、実際の生活場面の問題を、表やグラフを活用して解決していく体験を多く積ませていく。

資料の活用

・全体的に正答率が高かった。しかし、測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解できていない生徒が多かった。そこで、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な用語を用いてノートに記述してみたり、友達に説明したりする機会を多く設定していく。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業では、基礎的・基本的な内容の理解を深めます。
- 授業では、「一人学び」、「学び合い」の時間を設定し、活用力を伸ばしていきます。
- 生徒に昼休みや放課後に補充学習を行い、個々の生徒のつまずきに対応します。
- 授業ごとに宿題を出し、基礎力の定着と活用力の育成を図ります。

【ご家庭では】

- 授業ごとに宿題を出しています。宿題の取り組みについて意欲がでるような声かけをお願いします。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

調査の項目	本校%	全国平均%
毎日、同じくらいの時刻に起きている	100%	92.3%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	100%	75.2%
学校の規則を守っている	100%	94.7%
将来の夢や目標を持っている	100%	71.1%
人の役に立つ人間になりたい	100%	92.8%
人が困っているときは、進んで助けている	83.3%	83.8%
自分には、良いところがあると思う	50.0%	69.3%
平日にゲームを1時間以上する	66.7%	57.1%

起床時刻や就寝時刻もほぼ決まっており、宿題忘れや忘れ物などもなく規則正しい生活を送ることができていることから、基本的な生活習慣は身に付いている。また、それぞれが責任をもって役割を果たし積極的に各種学校行事に取り組むことができている。

進路に対する意識として、「将来の夢や目標を持っている」、「人の役に立ちたい」の項目は100%に達しており、向上心だけでなく思いやりの心もある。しかし、自己肯定感が全国平均と比べると低く、自分に自信を持つことができおらず、自分の良さに気づいていない生徒が多い。

テレビゲームについては、全国平均に比べて平日に1時間以上している割合が高いので、保護者と連携をとりながら、家庭での過ごし方を改善していきたい。

調査の項目	本校%	全国平均%
平日2時間以上勉強している	33.3%	34.2%
平日1～2時間勉強している	50.0%	33.7%
平日0～1時間勉強している	16.7%	32.1%
休日0～1時間勉強している	0%	32.0%
家で予習をしている	16.7%	34.2%
自分で計画を立てて勉強している	50.0%	48.4%

平日に2時間以上家庭で学習している生徒は全国平均とほぼかわらないが、1～2時間している生徒は全国平均を上回っている。休日は全員が1時間以上勉強しているが、ほとんどの生徒が復習と宿題を行っており、予習などの主体的な学習を行っている生徒が少なく学力に結びついていない面が見られる。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

○全教科の授業で、めあてを提示して生徒と評価基準の共有化を図り、学び合いを取り入れながら主体的な学習ができるように努めています。日々、各教科の宿題だけでなく、自主学習ノートの提出も義務づけて自主的な学習をするように促します。

○キャリア学習に重点を置き、将来の目標に向かって主体的な学習ができるように努めていきます。

【ご家庭では】

○基本的な生活習慣はできており決められた内容を学習する習慣は身につけていますが、復習や予習の時間が不足している面が見受けられます。時間を決めて自ら計画した家庭学習ができるようにご指導ください。また、テレビゲームやインターネット利用については、家庭で約束を決め、長時間にならないようにご指導ください。

○将来の夢や希望を見据えて、中学校卒業後の見通しや職業についてお子さんと対話をもつと学習への意欲が高まると思います。